

# 思い出の先生方



## 鶯沢工業の思い出



元鶯工高教諭  
佐竹 真

(旧姓・大崎)  
(岩平5〜平11)  
(鶯平21〜平24)

初任で岩ヶ崎高校に六年、他校勤務を経て、鶯沢工業高校に三年勤務しました。

鶯沢に勤務したのは、鶯沢工業高校が閉校となり、岩ヶ崎高校鶯沢校舎になる過渡期でした。鶯沢（創造工学科）として何か誇りを持てるものをと、身だしなみを整える取り組みをしました。たとえば、男子は学生服の詰め襟のホックを外さない、女子はスカートを短くしないというようなことを徹底しました。この取り組みが功を奏し、当時の校長をして「同じ制服を着ていても、鶯沢の生徒は着こなしを見ればわかりますね」と言わしめたのは、会心の出来事でした。



鶯沢での三年間は、地震に始まり、地震で終わりました。赴任してまもなくの六月、岩手・宮城内陸地震がありました。校舎の法面が崩れ、校庭には亀裂が走りました。そして、閉校式典が終わったばかりの三月、東日本大震災です。停電の中、電子科の太陽光発電の電力で携帯電話を充電させてもらいました。内陸地震のときは、崩落で道路が寸断され、花山の集落が孤立しまし

## 岩ヶ崎高校の思い出



元岩高教諭  
鈴木 雅光

(平8〜平12)

た。花山に住んでいた生徒は、「このまま死ぬのか」と思ったそうです。自衛隊に救助されて命拾った彼は、今度は自分が救助する側に回ろうと志し、自衛官になりました。今年は正月早々、能登半島で地震災害がありました。彼は、初志を貫いて命を救っているでしょうか。

閉鎖になった鶯沢校舎の旋盤をはじめとする工作機械は、今、私が勤務する迫桜高校に移設されて、エンジニア系列の学習に稼働しています。

平成八年四月から四年間、音楽の教員としてお世話になりました。長年、岩ヶ崎高校の音楽教育にご尽力された、千葉富美子先生の後を継がせて頂く形となり、身が引き締まる思いで赴任したことを覚えております。栗駒山の美しさ、岩ヶ崎の鄙びた町並み、三迫川の小さな鉄橋を渡るくりはら田園鉄道など、どこをとつ

ても私には最高のロケーションでした。

廊下に設置された学習スペースには常に質問に来た生徒が先生方に指導を受ける姿があり、文化祭や栗駒山車祭りなどでは生徒が一丸となつて大きな力を発揮させていたことを今でも鮮明に覚えています。

初めて合唱部の指導に携わることになり、試行錯誤しながらもその後の自分の基盤が築けたこと。掛け持ちが大変でしたが大編成の吹奏楽部を指導できたこと。進学指導先進校訪問で山形の学校に視察に行かせていただいたこと。当時の生徒が作詞作曲した卒業ソング「ふるさと」が



今でも歌い継がれていることなど、思い出はつきません。

平成十六年度からは公立を離れ母校でもある東北学院中高に勤務しておりますが、壁にぶち当たる度に、「岩ヶ崎ではどうしてたっけ？」と思いつ返しほど、ここで得たことの大さは計り知れません。

生徒数の減少で規模が小さくなったにもかかわらず、部活動や進学実績での当時と変わらない活躍ぶりは驚異的でしょうか。今後のますますのご発展を陰ながら応援し続けていきたいと思えます。



### 部活動の思い出



菅原 喜美男

(昭53年)

岩高卒

高校1年の夏休み、剣道部の合宿がありました。古い校舎の北側、音

楽室の隣、確か家庭科室だったと思います。その床に畳を敷いて布団を運び込み、蚊に刺されながら4・5日泊まりました。朝5時に起こされ三橋までランニング。道場を掃除して、3年生女子の優しい先輩方が作った朝食をいただき、午前と午後の稽古です。1年生の同級生は男子が5人いましたが、多い時だと10人を超える後輩思いの卒業した先輩方が道場に居並んでいました。いつ終わるのも予測のつかない稽古が始まるのでした。

一番きつかったのは約10分間の掛り稽古でした。休みなく打ち込みを続け、壁に追い込まれ、道場の外に出されそうになり、時々意識が飛んでしまいそうにもなりました。今思えばこの時の経験が少々なことでは心が折れることがない「我慢と根性」を身に付けることができたのだと思っています。

ひとつだけ楽しみだったのは、先輩にねだつてごちそうになった500mlのコーラをみんなで一気飲みすることでした。稽古では厳しい先輩方も稽古が終わればとても優しく、楽しい方が多かった気がします。仕事のことや、学生生活のことなどたくさんお話を聞くことができました。

高校卒業後、恩師の先生や先輩方と共にスポーツ少年団の指導者として剣道との関わりを続けることができました。部活動に感謝です。

現在、私は学校事務職員を定年退職後、再任用職員として縁あつて念願の母校に勤務しています。生徒数は減少していますが後輩達は部活動はもとより様々なことで活躍しています。職員として、先輩として後輩達を応援せずにはいられません。

あと少しの時間、微力ではありますが、岩ヶ崎高校のために力を尽くしたいと思えます。



### 岩高を卒業して



櫻井 すみ子

(昭61年)

岩高卒

この度は「岩ヶ崎高等学校同窓会報45号」への寄稿のご依頼を賜り身に余る光栄と恐縮しつつも、大変有り難いご機会に恵まれましたことに心より感謝申し上げます。お声がけ頂きまして、本当にありがとうございます。

さて私は、一体どれだけ久しぶりに高校時代のことをふり返ることになるのでしょうか、と思いましたが古いアルバムを開き回想にふけておりました。沢山のことが思い出されてきました。まるでタイムスリップを起こしたかの様に、胸がドキドキしてきました。「18歳の時の私」にもう一度戻った様な、出逢えた様な、そんな気持ちです。

この不思議な体験をさせて頂けたままに、私自身の物語を少しだけ申し述べさせて頂きたいと思えます。どうぞ宜しくお願いいたします。私は昭和58年4月から昭和61年3



月まで在籍して居りました。当時の同級生は男子が40人、女子は102人くらいでした。1組と2組は男女混合クラス、3組4組は女子クラスという編成でした。

確か：2学年に上がる年に、4クラス全てが男女混合クラスに変更されたと思います。その年の学年対抗体育祭はとても盛り上がりました。特に、男子の棒倒し競技ではびっくりする程応援合戦になり、その勢いのまま優勝する事ができました。私の高校生活は勉強にも放課後にも全力で向かっていた青春そのものでした。

そしていよいよ社会人です。どんな出来事が私を待っているのだろうと希望でいっぱいだった胸を思い出します。嬉しい事、楽しい事たくさんありました。時には苦しい事も。



その度に両親の教えを思い出しました。「どんな時も誰にでも伝わる様にあいさつするんだよ」「どんな時もめんこくしてなさいね」「何でも一生懸命やれよ、がんばれよ」と。この声に幾度となく励まされ乗り越えて来る事ができました。今日の私が在りますのは、美しい栗駒山と豊かな自然、御先祖様方と素敵な方との出逢い、結んでいただきました全ての縁があつてこそ、と感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。大切な方々のお役に立てる私で在ります様にこれからも精進して参りたいと思います。皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

### 何と無し



三浦 貴子 (平3年 岩高卒)

先日、友人4人で栗駒の居酒屋で集まった際に、岩高の同窓会の写真を見せてもらいました。「貴子ちゃんが見せている人は」と、気を遣ってくれた栗駒在住の彼女は、私が知っていたような人の写真を見せてくれました。高校卒業以来の34年振りなので面影のある方はぼんやりと：別人化した方は薄々と：屈託のない笑顔でいた様子を拝見しました。

今回このような機会を後輩から頂いた私は現在、地元の若柳でgokuai合同会社という法人を立ち上げ「若柳南居宅介護支援事業所」をやっています。福祉の仕事に就きたいと何となく考えていた岩高生の頃、あれから34年。現在も福祉の仕事をやっているとは：多分、この仕事に向いているのだろうと、うぬぼれています。高校を卒業してからは市内の特別養護老人ホームで、介護の全てを教えて頂いたといっても過



言ではない位、自分を0(ゼロ)から成長させてくれた施設で働くことが出来ました。そこでの学びは、嫌で仕方がなかった二十代～三十代の頃です。不適切にも程があるのではないかと思う位、厳しく礼儀作法から、介護のいろは等、このように年をとらなければ気づけない事を遥か昔にたくさん学ばせて頂きました。介護員として働いた十七年間、その後はケアマネージャーとしてJAでお世話になり、昨年十一月に開業致しました。この先も福祉の仕事と真摯に向き合い添い遂げるつもりでおります。このように高校時代から振り返る機会をもらわなければ気づかなかつた事です、本当に何となくだった事が嘘のようですが今後周囲の方々にお世話になり成長させて頂ければと思っております。